

大神山公園マネジメントプラン(案)

令和 8 (2026) 年 1 月
東京都 建設局

目次

はじめに

はじめに

| | |
|-------------------------------|-----------|
| I 公園の概要 | 2 |
| 1 都市計画の概要 | |
| 2 開園の概要 | |
| 3 主な公園施設 | |
| 4 成り立ち・基本的な性格 | |
| 5 周辺の土地利用・自然環境 | |
| 6 利用概況及び特色 | |
| 7 整備計画等 | |
| II 目指す姿及び重点取組、ゾーン別基本方針 | 5 |
| 1 目指す姿及び重点取組 | |
| 2 ゾーン別基本方針 | |
| III 図面・写真 | 8 |
| 現況平面図 | |
| 園内の写真 | |
| IV 資料編 | 10 |
| 公園の沿革 | |
| マネジメントプラン策定履歴 | |
| 利用状況等データ | |
| 主な催し物 | |
| 主な活動団体 | |
| 関連する行政計画等 | |

公園別マネジメントプランは、都立公園全体の整備・管理運営の指針として、東京が目指す公園づくりの方向性を示すパークマネジメントマスタープランに基づき、公園ごとの性格・役割を踏まえて各都立公園の10年程度の目標や維持管理・運営管理等の取組方針を定めたものです。

改定にあたっては、今後新たな10年間を見据えた公園づくりを目指して、「公園別マネジメントプラン（共通編）」（以下、「共通編」という。）と「公園別マネジメントプラン（個別公園編）」（以下、「個別公園編」という。）の2編構成として取りまとめています。

共通編は、全ての都立公園の質を向上させるために取り組む基本事項を明らかにし、維持管理・運営管理・公園整備の3つの視点から実施すべき取組内容を示すとともに、全ての視点に共通する4つの事項（戦略的広報、協働、リサーチとマーケティング、デジタルトランスフォーメーション）における取組内容を定めています。

個別公園編は、それぞれの公園の特性を生かした多様な公園を創出するため、公園ごとに目指す姿や重点的な取組などを定めています。

共通編と個別公園編を踏まえたマネジメントを推進することにより、都立公園全体の機能や価値を向上させていきます。

共通編は別冊となっておりますので、本冊と合わせてご参照ください。

マスタープランが示す目標の実現に向け、施策を効果的に推進していくため、取組の進捗状況の確認と検証を行いながら、適切な進行管理を行います。また、取組の進捗や社会状況の変化に応じて、取組を弾力的に進めていくことが必要であり、取組の内容や目標を発展的に見直していきます。

I 公園の概要

1 都市計画の概要

名 称 小笠原都市計画第7・5・1号大神山公園
位 置 小笠原村父島地内
面 積 17.40ha
種 別 特殊公園・風致
決定告示 (当初) 昭和51年10月12日 東京都告示第981号
(最終) 昭和63年3月10日 東京都告示第243号

2 開園の概要

名 称 都立大神山公園 (おおがみやまこうえん)
開 園 日 昭和56年4月30日
開園面積 153,125.94㎡ (令和7年11月1日現在)
公園種別 風致公園
所 在 地 小笠原村父島
アクセス 東京港竹芝客船ターミナルから小笠原父島まで「おがさわら丸」、駐車場 (無料)

3 主な公園施設

管理事務所 (小笠原ビジターセンター (都環境局) 内併設)、
山頂展望台、パノラマ展望台、冒険遊戯広場、お祭り広場、
児童遊戯広場、コミュニティ広場

園内マップ



4 成り立ち・基本的な性格

本公園は東京から南へ 1,000km に位置し、30 余りの島々から構成される小笠原諸島の父島に位置する風致公園である。

小笠原諸島の大部分は小笠原国立公園に指定されているが、海底火山の噴火による島の形成以来、これまで大陸と繋がったことのない海洋島のため、島にたどり着いた生物が独自に進化を遂げ特異な生態系を有していることが評価され、2011 年ユネスコの世界自然遺産に登録された。

公園は、丘陵地の大神山地区と二見港に面した平坦地である大村中央地区に分かれている。大神山地区は北部の丘陵地に位置し、園内の展望地からは二見港をはじめ兄島や大海原を一望することができる。また園内において小笠原固有の植物を観察することができる。

一方、大村中央地区は市街地に近接するほか、海水浴で賑わう大村海岸に面しており、小笠原ビジターセンターやお祭り広場などの施設がある。地域の方々の憩いの場として、また、イベントの場として利用され、地域の交流活動の拠点として親しまれている。ビジターセンターでは、国内外の来訪者に小笠原諸島の成り立ちや、貴重な自然の魅力、人々が育んできた歴史や文化の紹介のほか、自然遺産の保護・保全、小笠原に特有の動植物等の自然探勝、自然環境保護の普及啓発、および情報の発信等をしている。

5 周辺の土地利用・自然環境

(1) 周辺の土地利用

- ・東京から南へ 1,000km の太平洋上に位置する小笠原諸島（父島）へは、唯一のアクセス手段である「おがさわら丸」（定期船）が週に 1 本運航しており、24 時間という長い時間を経て到着する。
- ・小笠原諸島は、日本の南海に散在する大小 30 余の島々から成り立っている。亜熱帯に属し、気温の年較差が少ない小笠原は、世界でも有数の透明度の高さを誇る海に囲まれ、独自の生態系の動植物を有する自

然の宝庫である。

- ・本公園は父島二見港岸壁のすぐ北側に位置し、周囲を整備された道路（都道 240 号線および村道大神宮線）によって囲まれており、標高 90.2m、面積 12.5ha の一塊の丘陵である。
- ・公園の外周道路は、島の主要な幹線道路（都道 240 号線）であり、大村中央地区と大神山地区を結んでいる。また、公園は観光船発着所から島中心部へ向かう動線沿いに位置し、観光客を最初に出迎える広場となっている。
- ・公園への主要進入路は、都道とそこから分岐する村道大神宮線である。この村道は、大神山地区の観光スポットである大神山神社へと通じている。

(2) 自然環境

- ・小笠原諸島は、「東洋のガラパゴス」とも呼ばれ、豊かな固有の動植物が生息・生育しており、本公園でもタコノキ、オガサワラビロウ、ムニンヒメツバキ等の固有種がある。
- ・本公園は、北部の丘陵地に位置する大神山地区と、南部の二見港に面した平坦地である大村中央地区に分かれている。
- ・美しい蒼い海に面する大村中央地区の海岸線は、ウミガメの産卵場所であり、5～8 月にかけて島の風物詩でもあるウミガメの産卵風景がみられる。
- ・険しい地形の大神山地区では、オオハマボウやテリハハマボウが 1 年中黄色い花を咲かせており、春にはタチテンノウメ、夏にはムニンヒメツバキなど、四季折々の花が咲く。
- ・また、大神山地区の高台からは、蒼い海が一望でき、観光客がその見事な眺めを求めて訪れる。夏の夜空には、国の天然記念物であり、小笠原の象徴ともいえるオガサワラオオコウモリが飛来し、木々の枝にぶら下がり、そのユニークな姿を観察することができる。

6 利用概況及び特色

小笠原国立公園の中にあり、自然の景観を持った公園であり、東京から太平洋を1,000km南下、洋上に浮かぶ小笠原諸島父島にある。

魅惑的なブルーの海に臨むこの公園は、丘陵地の大神山地区と二見港に面した平坦地である大村中央地区に分かれている。

①大神山地区

玄関口二見栈橋のすぐ後ろに位置する大神山の山頂の展望地からは、二見港や大村、清瀬、奥村の集落を始め、野羊山、洲崎、夜明山、旭山、三日月山、兄島を見渡すことができる。また、園路を探勝すると、小笠原固有の植物を観察することができる。

②大村中央地区

海水浴で賑わう大村海岸に面し、小笠原ビジターセンター、お祭り広場等がある。白い砂浜では、毎年元旦に海開きが行われる。

7 整備計画等

(1)都市計画大神山公園(大村中央地区)の整備計画について(昭和57年)自然環境の保全と適正利用を主題とした公園として整備する。

- ・地元住民のレクリエーションの場として、またコミュニティ活動の場としての機能を有する計画とする。
- ・地域振興としての観光開発に資するよう配慮する。
- ・小笠原の貴重な自然や風土を正しく理解させ、その適正な利用を指導、案内、促進するための施設を検討する。
- ・計画に当たっては、地元の意見を可能な限り反映させ、調整をはかり、公園の建設や管理に対する地元協力が得られるよう配慮する。

Ⅱ 目指す姿及び重点取組、ゾーン別基本方針

1. 目指す姿及び重点取組

目指す姿

小笠原諸島の立地特性を生かし、魅力を高めるほか、固有の生物種の保全等の取組を進め、豊かな自然を感じられ、地域のコミュニティ活動や観光振興の場となる、魅力あふれる公園としていく

この目標を達成するため、本公園では次のことに重点的に取組んで行く。

なお、各取組の具体的内容等については、事業計画等の作成時にそれぞれ設定し、マネジメントサイクルのなかで見直しを行っていく。また、各項目及び施策名はパークマネジメントマスタープランと連動している。

重点取組

(1) 特色あるイベント等の充実

【施策 6 にぎわいをふやす】

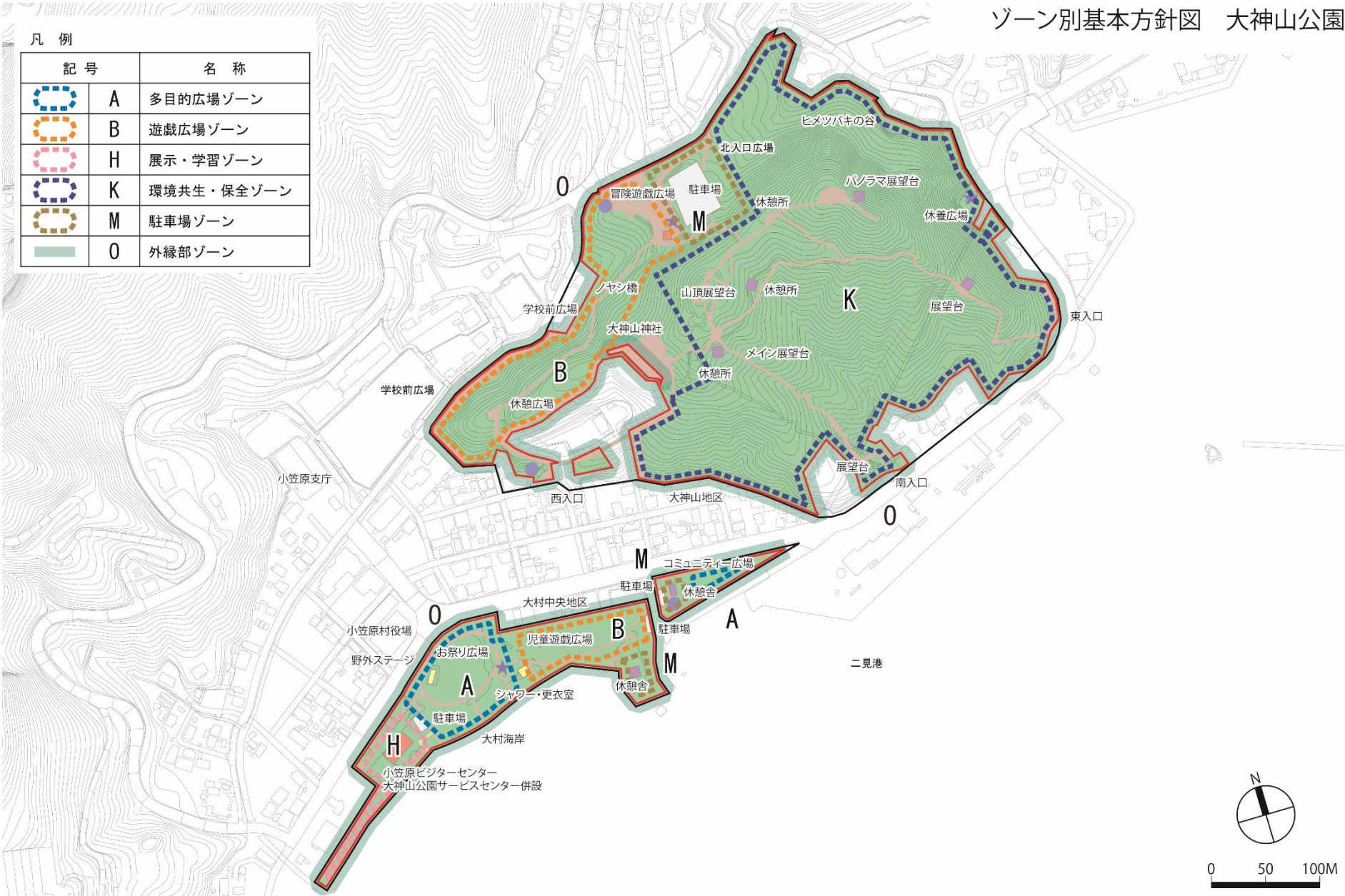
- パークマルシェの開催等、地域全体の魅力向上や活性化を視野に、自治体や近隣の文化施設、地元企業等多様な主体と連携した取組を進めます。

(2) 管理運営を通じた交流の促進

【施策 8 つながりをつなぐ】

- 新たな交流のきっかけとなるボランティアへの参加機会の提供や、幅広い世代の来園者が交流できるイベントやプログラムを実施します。
- 日常的に参加できるスポーツイベントや、公園がもつ自然環境を活かしたアートイベントなど、特色ある運営を進め、新たな利用者呼び込めるよう、専門性の高い事業者との連携を促進します。

2. ゾーン別基本方針



■ゾーン別基本方針

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーン毎の基本方針を定める。

なお、ゾーン別基本方針は、原則として開園区域を対象に定めるものとし、新規開園区域があった場合は整備内容等を踏まえ、必要に応じ追記等を行う。

| 記号 | 区分 | 基本方針 |
|----|----------|--|
| A | 多目的広場ゾーン | ・コミュニティ広場、お祭り広場などのあるゾーン（大村中央地区） 地域の憩いの場、遊びの場、イベントの場などとして安全・快適に利用できるように対応していく。 |
| B | 遊戯広場ゾーン | ・冒険遊戯広場のあるゾーン（大神山地区） ・児童遊戯広場のあるゾーン（大村中央地区） 子どもたちが安全、快適に遊べるよう対応していく。 |
| H | 展示・学習ゾーン | ・小笠原ビジターセンターのあるゾーン 小笠原の自然の魅力を紹介する情報発信拠点としての機能を発揮させるため、運営主体が異なることから、双方が連携を図りながら、連結部など施設利用と調和した管理を行う。 |

| 記号 | 区分 | 基本方針 |
|----|------------|---|
| K | 環境共生・保全ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原固有の動植物が生息・生育するゾーン（大神山地区） 小笠原固有の動植物の生息・生育の場を保全・保護を図るとともに、観察などの利用にも対応していく。自然についての情報を発信していく。 ・山頂展望台やパノラマ展望台などのあるゾーン（大神山地区） 大神山地区の斜面を高台の展望台まで登っていく園路を散策しながら、小笠原の特色ある動植物を観察したり、展望台や休憩所から美しい海を一望できる場として対応していく。 ・ヒメツバキの谷のあるゾーン（大神山地区） 谷の地形に沿って整備された園路を散策しながら、小笠原固有の動植物の観察ができる場として対応していく。 |
| M | 駐車場ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場のゾーン 案内機能の充実等を図り、車利用だけでなく、その他の来園者の安全にも対応していく。 |
| O | 外縁部ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・民有地や公道などに接する公園外縁部 本公園の外縁部で、区画道路等を介して住宅地等に面する所では、見通しを確保し、住宅地等に対する良好な景観の提供を図るよう留意する。また、住宅地等と直接境界を接する所では景観面のほか、落ち葉や落枝、越流水などの直接的な悪影響等を及ぼさないよう対応していく。 |

【現況平面図】



園内の写真



コミュニティ広場



メイン展望台



お祭り広場



児童遊戯広場



冒険遊戯広場



パノラマ展望台

IV 資料編

■公園の沿革

| | |
|--------------|--|
| 昭和 44 年 12 月 | 小笠原諸島復興特別措置法公布施行 |
| 昭和 45 年 7 月 | 同法に基づく「小笠原諸島復興計画」における土地利用計画において父島集落計画に公園地区（大神山地地区、大村地区）を設定 |
| 昭和 49 年 4 月 | 父島及び母島の全域を都市計画区域に指定 |
| 昭和 51 年 10 月 | 東京都告示第 981 号により、都市計画決定（大神山地地区） |
| 昭和 53 年度 | 大神山地区の整備着手 |
| 昭和 56 年 3 月 | 東京都告示第 202 号により、都市計画変更（大村中央地区） |
| 昭和 56 年 4 月 | 大神山地区 12.3ha を開園 |
| 昭和 57 年度 | 大村中央地区の整備着手 |
| 昭和 63 年 1 月 | 小笠原ビジターセンター開館記念式典 |
| 昭和 63 年 3 月 | 東京都告示第 242 号により、都市計画変更 |
| 平成 10 年 6 月 | 追加開園 |
| 平成 17 年度 | 機能増強のためビジターセンターを増築 |
| 平成 23 年 6 月 | 小笠原諸島が、ユネスコの世界自然遺産に登録される |

■マネジメントプラン策定履歴

| | |
|--------------|--------------------|
| 平成 16 年 8 月 | パークマネジメントマスタープラン策定 |
| 平成 18 年 12 月 | 大神山公園マネジメントプラン策定 |
| 平成 22 年 3 月 | 大神山公園マネジメントプラン改定 |
| 平成 27 年 3 月 | パークマネジメントマスタープラン改定 |
| 平成 27 年 5 月 | 大神山公園マネジメントプラン改定 |
| 令和 4 年 3 月 | 大神山公園マネジメントプラン改定 |
| 令和 6 年 3 月 | パークマネジメントマスタープラン改定 |
| 令和 8 年 3 月 | 大神山公園マネジメントプラン改定 |

■利用状況等データ

1)年間利用者数の推移

| | 6 年度 | 5 年度 | 4 年度 | 3 年度 | 2 年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 年間総計 (人) | 474,934 | 458,650 | 395,388 | 315,157 | 231,977 |

2)月別利用者数の推移

| 6 年度 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年間総数 (人) | 40,426 | 34,010 | 44,846 | 53,204 | 54,966 | 35,891 |
| | 1 0 月 | 1 1 月 | 1 2 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
| | 36,998 | 26,429 | 26,547 | 38,024 | 34,353 | 49,240 |

■主な催し物(令和6年度実施分)

| 種別 | No. | 事業名 | 実施期間 | 参加人数(人) |
|------|-----|------------------------------|--|---------|
| イベント | 1 | 【小笠原生きもの観察会】大神山公園 ガイドウォーク | 4月10日、11日、13日、5月8日、6月25日、7月15日、16日、8月11日、11月25日、30日、12月1日、7日、1月1日、2月25日 | 545 |
| | 2 | 小笠原歳時記 | 4月28日、8月10日、11日、10月31日 | 1,484 |
| 都民協働 | 1 | マイクロプラスチック回収活動 | 5月8日、7月14日、15日、16日、8月11日、9月9日、12日、15日、16日、18日、1月1日、3月5日、8日 | 774 |
| | 2 | パークミーティング | 2月21日 | 5団体、11人 |
| 自主事業 | 1 | ビオ・アース映画祭 | 8月23、24日 | 約300 |
| | 2 | 大神山 café | 4月29日、30日、5月1日、3日、4日、7月15日、1月30日、2月1日、2日、14日、15日、20日、21日、26日、27日、3月5日～7日、11日～13日、18日、19日、25日、26日、31日 | 約1,000 |

■主な活動団体(令和6年度調査)

| 団体名 | 活動内容 | 人数(人) |
|-------------------|-----------------------------|-------|
| NPO 法人 小笠原野生生物研究会 | 公園内自然環境保護活動（移入種除去・植栽）、花壇づくり | 8 |

■関連する行政計画等

- ・2050 東京戦略（令和7年3月）
- ・新たな都立公園の整備と管理のあり方について（答申）（令和5年6月）
- ・都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）
- ・東京都景観計画（平成30年8月）
- ・東京都福祉のまちづくり推進計画（令和6年3月）
- ・緑確保の総合的な方針（改定）（令和2年7月）
- ・都市計画公園・緑地の整備方針（令和2年7月）